



ワンダーワールドを探して

WONDER WORLD

ある春の日。

国王は、せんげんしました。

どこにもまけない、国をつくろう。

オンリーワンな国をつくろう。

その国は、

おとずれる人みんなが幸せな気持ちになれ、

国じゅうの人が、とても豊かになれる国だそう。

国民は、大喜びしました。

これで安心して暮らせる。

みんな、いろんなことを想像しました。



そのときです。

国王がさらに大きな声で言いました。

どうすれば、そんな国になれるのか、
みんなでかんがえてくれ。

国民はみんな、だまっけてしまいました。

てつきり国王からいいものが
もらえるのかと思ったら、
自分でかんがえるのか、
とがっかりしてしまいました。



すると一人の男が立ちあがったのです。

法を変えてもよいのですか。

何をしてもよいのですか。

みんなを豊かにすればよいのですか。

国王はこたえました。

必要ならば、法を変えてもよい。

罪をおかさなければよい。

なまけものまで、

豊かにならなくてもよい。



わかりました。

わたしはお手本にできる国がないか、
旅をしてこようとおもいます。

あるものは、

いっしょうけんめいに働けば、

そのうち豊かになれるはずなので、

いつもどおりに仕事をがんばります。

ほしいものがなんでも買えれば、しあわせだ。

というものもいれば、

お金がたくさんあっても、

一人ぼっちじゃさびしいよ。

と、みんないろんなことを言いだしました。



とつぜん、国じゆうに

大きな声がひびきわたりました。

わたしは、

豊かさとは何かを、

まずかんがえます。

おおぜいのぐんしゅうの真ん中に

ひとりの少年がいました。

国王はたずねました。

豊かさをかんがえるとは、どういうことだ？





この国には、
男もいれば、女もいます。
子どももいれば、
大人も、年寄りもいます。
勉強がとくいな人、
運動がとくいな人、
手先がきょうな人、
力持ちの人、
話じょうずな人、
数えきれないほど、
いろんな人がいます。
一人ひとりの豊かさは
きつとちがいます。
だから、
豊かさとは何なのか、
かんがえたいのです。

またまた、国王はたずねました。

お前ひとりで、その豊かさは見つけられるのか？

少年はこたえました。

わたしは、世の中のことをあまり知りません。
できることなら、

いろんな人と、いっしょにがんばられると良いのですが・・・

よし、いっしょにやろう。

はじめに国王にいつもんしたものが手をあげました。

旅にしようとしていたもの、

仕事をがんばろうとしていたもの、

ほしいものを買いたいと思っていたもの、

ひじょうにやさびしいというもの。

しぎしぎしぎ、みんながつづいたのです。



国王はめいじしました。

年が変わるまでに

この国があたらしい始まりをおかえられるようにしてくれ。

手をあげたものたちはかんがえました。

何から始めようか、と。

ひと晩かんがえても、何もおもいつきません。

朝になると、なにやら声がきこえてきました。

「僕は新しい自転車がほしいな」

「もっと大きな家にすみたいよ」

「あたしゃ、楽しんで暮らしたいよ」

豊かさをかんがえていたのは、

自分たちだけじゃなかったのです。

まずやるべきことが決まりました。

国じゅうの人みんなと話をしよう。



そうと決まると、
手をあげたものたちは、
街へ、
村へ、
学校へ、
病院へと、
出かけて行ったのです。
みんなが戻ってきたのは、
夏も終わろうと
していたころでした。
服はぼろぼろになり、
みんな疲れ果てていましたが、
その顔はじゅうじつかに
みちあふれていました。



そしてひとりで、

国じゅうの人からきいてきた話を始めました。

豊かさとは、

この国に足りないこととは、

この国のすべれていることとは、

この国のいけないこととは・・・

いろんな声があつめられたのです。



すべてを話し終えるまでに

いくつもの夜が

すぎていきました。

きせつは

秋になるうたっています。

国王とのやぐそくまで
あまり日はありません。

風が吹こうが、雨がふろうが、
たとえやりがふっても、やりとげなければなりません。

国のほうぼうで、いろんな声をきいたもの
みんながいうことはバラバラです。

とてもひとつにすることはできません。
途方に暮れていると・・・

少年がつぶやきました。

国王はだれを豊かにするって言ってたんだっけ？

おとずれる人・・・

国じゅうの人・・・

人・・・



全員が、ハッしました。

と同時に、自分たちがはずかしくなりました。

どうすれば、お金やモノが手に入り、

たてものをりっぱにできるのだろうか？

そんなことばかり、かんがえていたからです。

お金を使うのも、人。

モノを使うのも、人。

どんなにりっぱなたてものだって、

人がいなければ、ただのハコ。

豊かな国にするのではなく、

暮らす人が豊かにならなければいけないんだ。

おとずれる人が、安心できる国。

それをつくれるのは、わたしたちしかない。

おとずれる人が、感動できる国。

それをつくれるのは、わたしたちしかない。

おとずれる人が、また来なくなる国。

それをつくれるのも、わたしたちしかない。





お金はいらないのか。
いろんなモノはいらないのか。
りっぱな家にすみたくはないのか。

少年がこたえました。

心の豊かさにくらべれば、

それほど大事なことはありませんし……

国王は嬉しそうな顔をうかべ、

少年の話にききいつていました……

豊かさとは、わたしたちの心の中で
育っていくんだとおもいます。
わたしたちの心が豊かになれば、
きっと、おとずれる人の心も
豊かになるんです。
そしてまた、わたしたちの心を
もっと豊かにしてくれます。

そのことを国王につげると、
国王はだずねました。

新しい年をむかえ、
国王は、

あらためて立国をせんげんしました。

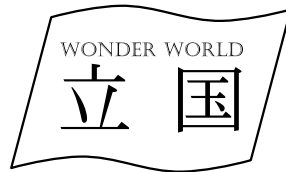
今日から、

この国の名を、ワンダーフルとゆふ。

そして心豊かな国の人を

ワンダーランドびととゆふ。





2010年1月11日、タイラグループでは
新しい企業理念『We are WONDER WORLD!』を導入しました。
1200人の社員全員が参加し、一言一句まで社員自身が考えて、
1年がかりで練り上げた“手づくりの理念”です。

「何のために仕事するのか」

「どう動くか」

「将来どうなりたいか」

タイラグループの社員は日々、新しい理念、つまり
自分たちで決めたルールに照らし合わせながら、
自分の役割とまっすぐ向き合い、一日ごとに成長しています。
この絵本がタイラグループの“今”を知るキッカケになれば、幸いです。



TAIRA GROUP
EXCELLENT COMPANY

〒838-0141 福岡県小郡市小郡 1543-3 TEL. 0942-73-2888

<http://www.wonderland.gr.jp/>